

No	カテゴリ	質問	返答
1	サイトについて	一般の人が思うNatureやScienceなどの科学分野での論文発表の場、学術誌への道筋とどのように違うのでしょうか？	通常の学術誌への論文発表の場合、必ず、編集者そして匿名の査読者による「査読」というプロセスを通ります。この「査読」プロセスは非公開なので、編集者や匿名の査読者が持つバイアスの影響から逃れることができません。今回、この「査読」プロセス自体を公開で行うことで、編集者や匿名の査読者が持つバイアスを排除することができます。また、この査読プロセスは一般的に1年以上かかることが多く、万一、査読に拒否されると、別な学術誌の査読対応にもう1年かかってしまい、研究成果を迅速に公開している、とはいいたくない状況でした。さらに「査読」プロセスを無事通過して学術誌に研究成果が公開されたとしても、その成果を読めるのは高額な購読料を支払える読者に限られていました。今回、公開を先に、査読は後で、と順番を入れ替えることで、迅速かつ透明性の高い研究成果の公開が可能になりました。
2	サイトについて	こういったサイトは今までなかったので特に人文科学部門などでの日本語での発表がよりしやすくなるのでより多くの論文発表につながるという、期待できると言えるのでしょうか。	従来より人文科学部門などでの日本語での発表は一般的です。これは、研究対象が日本である場合が多く、日本語を使うことでより深い議論ができるからです。一方、日本語で発表した論文は、世界大学ランキングなどで使われている書誌データベースに掲載されず、また、研究力の指標として使われる被引用数の計算もできないため、英語での論文発表に劣る扱いを受けていました。今回、このサイトで日本語での発表を可能することで、日本語で発表した研究成果についても正当な評価を期待できるようになります。
3	サイトについて	同じような論文投稿フォームとしてよく素粒子・宇宙分野ではarXivが使われていますが、今回のものとは何が異なるのでしょうか。	大きな違いとしては、これまでは、査読→出版、という流れでしたが、筑波大学ゲートウェイ(University of Tsukuba Gateway)では、出版→査読の流れになることが挙げられます。伝統的なモデル: 投稿→非公開査読→出版(著作権は出版社、引用可)→有料購読 F1000 Researchモデル: 投稿→出版(著作権は著者、引用可)→無料閲覧→公開査読 ほかのモデル(いずれも伝統的モデルに依存): オープンアクセスジャーナルモデル: 伝統的モデル+無料閲覧 ハイブリッドモデル: 伝統的モデル+出版時に有料購読か無料閲覧かを選択 プレプリントモデル: 出版前自主公開(引用不可)→無料閲覧(+伝統的モデル) リポジトリモデル: 伝統的モデル+出版後自主公開(別DOIで引用)→無料閲覧
4	サイトについて	電子出版をゲートウェイを通じて行うということは、NatureやScienceなどには投稿しなくなるようになるのでしょうか？	筑波大学がすべての電子出版についてゲートウェイを通じて行うわけではありません。NatureやScienceへの投稿も続けますが、出版の選択肢が増えるかと考えています。
5	サイトについて	リリースでゲートウェイと表現されていますが、具体的には何のことでしょうか？	論文ならびに著者と査読者との議論が掲載されるサイトのことです。ちなみに、F1000Research社の出版モデルでは、同モデルを採用した独立のサイトをプラットフォーム、F1000Research社のプラットフォーム内に間借りしたサイトをゲートウェイと呼んでいます。筑波大学のサイトは後者となります。
6	サイトについて	「公開と査読の順番を入れ替えることで迅速で透明性の高い研究成果の公開が可能になる」とあります。今までは査読で公開の順だったのは分かりますが、これが迅速で透明性の高い成果の公開につながるのなぜですか？どのような仕組みになっているのでしょうか？	これまでの仕組みとの大きな違いは、下記の通りです。 伝統的なモデル: 投稿→非公開査読→出版(著作権は出版社、引用可)→有料購読 F1000 Researchモデル: 投稿→出版(著作権は著者、引用可)→無料閲覧→公開査読 伝統的なモデル(=通常のジャーナル)の場合、査読後に改稿を行い、査読者が修正を確認し、不十分なら再修正を行い、修正完了後に版組みを行い、著者が校正したのちに、ジャーナルの出版時期(少ないもので年1回、多いものは年12回)まで待って公開されます。そのため、投稿から公開までに早くても半年、遅いと2年近くかかることもあります。それに対して、筑波大学ゲートウェイに投稿するとおおよそ2週間後に査読なしで公開され、後から査読が行われるため、投稿から公開までの時間が大幅に短縮されます。一刻を争う場合、これは大きなメリットとなります。 伝統的なモデルの場合、査読が非公開で行われるため(多くの場合、研究者の良心と見識に基づいて適正に行われますが)編集者や査読者のバイアスが影響することがあります。それに対して、F1000 Researchモデルでは、編集者が存在しないため、編集者によるバイアスは存在しません。また、査読はウェブ上で査読者の実名入りで行われます。査読結果は著者だけでなく誰でも見られるため、完全な透明性が確保されます。
7	サイトについて	IFの高い学術誌に対して、UTGは対抗するものなのでしょうか？	対抗するものだと考えていません
51	サイトについて	日本語論文の場合、査読者も日本語になると思うが、査読レポートや、F1000Rの編集者とのやり取りは何語になるのか？	日本語論文でしたら、査読レポートも日本語になります。また、編集者とのやり取り(メール等)もすべて日本語で行います。
52	サイトについて	論文はできているが、Figは専門業者に依頼している部分があり、まだ完成していない。このような状況でも投稿できるか？日本の会計年度は3月のため、可能ならば1月中旬に支払いしたい	編集チームにご相談ください。
57	サイトについて	日本語論文の場合、要旨は日本語で良いのか？	日本語論文の場合、日英での登録が必要なのはタイトルのみです。ただ、英語の要旨も用意してあった方が読者が増えるかもしれません。
46	投稿論文について	もし筑波大学ゲートウェイで、acceptされなかった場合、引き下げて別の雑誌に投稿はできるのでしょうか？	できません。新しい投稿の形式となりますのでご理解の程お願いします。
58	投稿論文について	査読者のコメントが非常に有益だと感じたとき、改訂版の謝辞や共著者に査読者を含めることは可能か？	F1000Rでは、査読者名が公開されるとともに、査読レポートにDOIが付くため、この段階で既に、査読者の貢献の見える化は実現されているものと考えます。
44	投稿料について	投稿料はかかるのか	投稿する論文の種類によってAPCが異なります。
45	投稿料について	APCは研究費から支払えるのでしょうか？	研究費での支払いが可能になるよう、学内体制を整えているところです。
40	投稿者について	投稿の資格はありますか？	少なくとも共著者の中に筑波大学の教員が入っていれば投稿できるシステムです。
41	投稿者について	筑波大学人文社会系だけが投稿できるのでしょうか？	全分野の英語論文が投稿できます。人文学や社会科学については、英語だけでなく日本語で論文等を出版することもできます。
42	投稿者について	誰でも投稿、ということは一般の在野の研究者でもよいのでしょうか？	少なくとも共著者の中に筑波大学の教員が入っていれば投稿できるシステムです。
43	投稿者について	ゲートウェイには筑波大学以外の日本の大学・研究機関の研究者は投稿できるのでしょうか？、あるいは機関として参加することで投稿が可能になるのでしょうか？	少なくとも共著者の中に筑波大学の教員が入っていれば投稿できるシステムです。
49	投稿者について	大学院生は投稿できるのか	大学院生が投稿する場合、指導教官との共著で出版してください。
53	投稿者について	名誉教授でも投稿できるか？	運用委員会で検討し、追って方針を公開します。

No	カテゴリ	質問	返答
32	投稿後の論文の扱いについて	「日本語で書いた論文は日英両言語で要旨とメタデータを収録し、日本語と英語の書誌データベースに掲載される」とあります。この場合のメタデータとは何でしょうか？また日本語からの英訳は誰がどのような形で行うのでしょうか？（自動翻訳でしょうか？）また英語の論文を執筆した際には日本語の要約や日本語の書誌データベースへの掲載はないと考えていいですか？	メタデータとは、著者名、所属機関名、論文題目、キーワード等の基礎情報です。英訳は投稿者自身が行います。
33	投稿後の論文の扱いについて	「データはオープンアクセスで公開される」とありますが、F1000 Researchのホームページに行けば誰でも閲覧できるということですか？これは登録や月額料金は必要ですか？	誰でも無料で閲覧可能です。
34	投稿後の論文の扱いについて	博士課程の卒業要件を満たす形になりますか？	博士課程の卒業要件については、各専攻で決定される内容かと思えます。
35	投稿後の論文の扱いについて	IFはF1000 Researchで計算されるのか、筑波大学ゲートウェイとして計算されるのですか？	F1000 Researchはジャーナルではないため、現在は計算されません。
36	投稿後の論文の扱いについて	Scopus等にはいつ収録されるのでしょうか？	査読に合格した論文が順次収録されます。
37	投稿後の論文の扱いについて	査読と公開が逆ということは、査読によってrejectされた場合、その後非公開になるということですか？研究成果の迅速な共有という点には共感します。ただ、個々の研究者にとって、研究結果は世の中に広まってしまふのに自分の業績にならない(なりにくい)仕組みとも受け取れてしまいます。査読やacceptのポイント(研究の新規性など)があれば教えていただきたいです。	筑波大学ゲートウェイ(University of Tsukuba Gateway)では、rejectという概念がありません。査読済みになるまで、著者は改訂版を投稿することができ、さらに、査読者のコメントがあまりに不適切だと感じた場合は、著者は査読者を変更することもできます。
38	投稿後の論文の扱いについて	査読プロセス的にはオープンアクセス雑誌と通じるものがありますが、掲載論文はオープンアクセス化されますか？その場合、論文掲載料はどうなるのでしょうか。	論文はF1000 Researchサイト上に公開され誰でも無料で閲覧可能です。投稿する論文の種類に従い定められたAPCを支払う必要があります。
39	投稿後の論文の扱いについて	レビュー前と、レビュー後と別のDOIがつくのでしょうか？	査読の有無でDOIが変わるわけではなく、論文の版によってDOIが変わります。
48	オープンデータについて	オープンデータでは、そのようなデータを公開するのにか？自分が研究で用いているのは、憲法に関する書籍で、これを公開することは著作権的にNGではないか。	用いているデータが出版されている書籍の場合は、引用で十分です。 研究データについて詳しく知りたいかたは、こちらをご覧ください。 https://f1000research.com/gateways/tsukuba/for-authors/data-guidelines
23	投稿規定について	F1000に発表した内容は、他の論文に発表できますか？	できません。投稿できる論文は、未出版のもので、他の学術誌で審査・査読中ではないものに限り、プレプリントサーバー(arXivやbioRxiv等)に掲載された原稿については、投稿を歓迎します。
24	投稿規定について	review論文も投稿できますか？	できます。他に、protocols, registered reports, data notes, case studiesなども投稿できます。 投稿できる種類はこちらからご確認ください。 https://f1000Research.com/for-authors/article-guidelines 社会科学と人文科学の日本語論文についての投稿をお考えの方はこちらをご確認ください。 https://f1000research.com/gateways/tsukuba/for-authors/article-guidelines?alternateLanguageView=true
25	投稿規定について	Documentsも投稿できるのか	できません。
26	投稿規定について	投稿できるのは、筑波大学所属の研究者だけですか？	少なくとも共著者の中に筑波大学の教員が入っていれば投稿できるシステムです。
27	投稿規定について	私の分野の場合、論文のもとになるデータは判例、文献などになるのですが、この場合、データとはどのようなものを指すのでしょうか？	データに関するガイドラインをご参照ください。
28	投稿規定について	芸術作品も投稿できるのでしょうか？	いまはできません。
29	投稿規定について	日本語以外、フランス語、ロシア語などの論文も投稿できるのでしょうか？	日本語対応できたことは、ブレイクスルーです。いずれ日本語以外の言語についても対応していくことを検討しています。
30	投稿規定について	iThenticate以外のmisconduct防止策(画像不正検出など)はあるのでしょうか	画像操作にはphotoshopとORIのAdvanced Forensic Actionsを使っています。 Advanced Forensic Actions: https://ori.hhs.gov/advanced-forensic-actions
31	投稿規定について	字数制限を教えてください	ありません。
47	導入経緯・契約について	筑波大が利用しようと決めた背景は何でしょうか。	日本のオープンアクセスは出遅れています。そういった意味でコントリビューションがそれほど多くありません。また、英語に過度に依存した学術情報コミュニケーションにも問題がないとは言えません。そこで、筑波大学が日本で初めてF1000 Research出版モデルを大学として活用すること、また「研究と学問、そして言語には壁があってはならない」という理念を共有できたF1000 Researchと連携してF1000 Research出版モデルを世界で初めて英語以外の言語で可能にすることで、日本と世界の学術情報コミュニケーションに一石を投じたいと考えました。これが波及して、どこの国の言葉でも「迅速かつオープンに制約なしに」研究成果を発信できることがグローバルスタンダードになれば良いと願っています。

No	カテゴリ	質問	返答
10	査読について	「論文の質」をどう担保するのでしょうか？	通常、著者がレビュアーに回答した内容は非公開ですが、筑波大学ゲートウェイ(University of Tsukuba Gateway)のレビューでは、全て公開され、透明性を担保することで、論文の質を担保できている。(要確認) 合計2名の査読者の承認が取れた段階で、査読通過、になります。この査読プロセス自体も公開されていて、もし、バイアスをもった査読者だったり、おかしな要求をしてくる査読者だった場合、論文投稿者は査読者の交換を申し出ることができます。また査読者が特定されるためハゲタカOA問題を回避することもできます。また、公開された論文は、従来の論文と同様、引用数で質を計測することができます。
11	査読について	査読は誰が行うのでしょうか？	著者が5名まで査読してほしい人を推薦できます。推薦された査読者のなかで利害関係者でない研究者に対し、F1000 Researchが順次査読依頼を行い、その中で、査読を了承した研究者が査読者となります。
12	査読について	査読が始まるまでどのくらいかかるのでしょうか？	2019年の実績値では、投稿から公開までが23日(中央値)、公開から最初の査読コメントが付くまでが19日(中央値)になっています。
13	査読について	査読者が査読を引き受けるメリットは何でしょうか？	従来との違いとしては、査読者名が公開されること、査読コメント自体が引用されるようになること、ORCIDとの連携により自身のORCIDページの「査読欄」に業績として掲載できるようになること、などが可能になります。
14	査読について	査読者は誰が決めるのでしょうか？	著者が5名まで査読してほしい人を推薦できます。推薦された査読者のなかで利害関係者でない研究者に対し、F1000 Researchが順次査読依頼を行い、その中で、査読を了承した研究者が査読者となります。
15	査読について	査読者の担保はF1000任せになるのでしょうか？	F1000から提案もありますが、あくまでも査読者を推薦するのは著者自身です。
16	査読について	査読者は何人くらい確保できるのでしょうか？	1本の論文に対して、著者は5名まで査読者を推薦することができます。
17	査読について	査読者一覧は確保できるのでしょうか？	F1000から提案もありますが、あくまでも査読者を推薦するのは著者自身です。
18	査読について	筑波大学の研究者が査読者になるのでしょうか？	査読者を推薦するのは著者です。筑波大の研究者に限定されず、世界中の研究者を査読者に推薦可能です。推薦された査読者のなかで利害関係者でない研究者に対し、F1000 Researchが順次査読依頼を行い、その中で、査読を了承した研究者が査読者となります。
19	査読について	査読者は、どうやって選ばれるのですか？また、査読者のレベルはどのように担保されますか？	<p>査読者は、著者が推薦した査読者のなかでF1000 Researchが利害関係者でないと判断した研究者に対し、F1000 Researchが順次査読依頼を行い、その中で、査読を了承した研究者が査読者となります。査読者として推薦されるためには、通常、博士号(PhD / MD / MBBSまたは同等のもの)を保持している必要があります。また査読を行う研究に関連する分野について、主著者として3報以上の論文(うち1報は直近5年以内)を発表している必要があります。</p> <p>なお、以下に該当する人は、査読者として適切でないと判断される場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間で、著者・共著者のいずれかと共同執筆している ・UTGへ投稿後、著者と共著している ・著者と同じ機関で働いている ・著者と近い協力者 <p>詳しく知りたいかたは、こちらをご覧ください。 https://f1000research.com/gateways/tsukuba/for-authors/tips-for-finding-referees</p>
20	査読について	査読通過まで、どのくらいの日数がかかるのでしょうか？	2019年の実績値では、中央値で78日(英語の場合)になっています。
21	査読について	何時まで経っても査読者が決まらない、査読済みにならない、ということも起こりうるのでしょうか？	F1000コミュニティの中で、コンストラクティブ(前向き)に捉え、査読していくことになっています。
22	査読について	もし、思いつく査読者が全員利害関係者だった場合、投稿はできないのでしょうか？	著者から推薦された査読者について、明らかな利害の衝突がないかどうかをF1000 Researchでは常にチェックしています。通常、そのような衝突が見つかった場合は査読者の推薦を拒否します。しかし、非常に小さく、誰もが知っていて、誰もが一緒に仕事をしてきた分野や、非常に協力的なコミュニティがあり、巨大な協力的なネットワークで仕事をする傾向がある分野(ゲノミクス、高エネルギー物理学など)があることは認識しています。このような場合には例外を設け、関係が近すぎない査読者に依頼するようにします(例:同一大学、緊密な連携等)。いかなる場合においても、査読者には、利益相反を公に宣言していただくようお願いしております。そのような例外が必要と思われる特定の分野またはコミュニティがある場合は、必ずお知らせください。
50	査読について	イギリスで、公開査読はどう受け止められているのか	イギリスでは、以前より公開査読が浸透してきていると感じます。
54	査読について	査読者の選定基準はどうなっているのか？研究上のつながりはなくとも、じつは、著者と査読者が夫婦である、同じ職場である、等、近い場合はどうなるか？	<p>著者から推薦された査読者は、F1000Rの編集チームがその適正を確認します。論文等で、研究上のつながりが見当たらない場合でも、読者がコメント欄に個人的なつながりを指摘することが可能です。</p> <p>査読者基準について詳しく知りたいかたは、こちらをご覧ください。 https://f1000research.com/gateways/tsukuba/for-authors/tips-for-finding-referees</p>
55	査読について	F1000Rの査読者選定基準とは異なる査読者選定基準を筑波大学ゲートウェイの中に複数設けることはできるか？	<p>F1000Researchでは、分野別に査読者基準が異なることは認識しています。必要に応じ、編集チームにご相談ください。</p> <p>査読者基準について詳しく知りたいかたは、こちらをご覧ください。 https://f1000research.com/gateways/tsukuba/for-authors/tips-for-finding-referees</p>
59	査読について	その査読候補者の所属は知っていますが、その方のメールアドレスは知りません。その機関に彼/彼女のメールアドレスを教えてくださいませんか？	<p>通常はメールアドレスを必要としますが、もしメールアドレスが見つからない場合は、査読者名と機関名を記載していただければ、あとは私たちが対応いたします。</p> <p>査読者については、以下のリンクからご覧いただけます。 (日本語) https://f1000research.com/gateways/tsukuba/for-authors/tips-for-finding-referees (英語) https://f1000research.com/for-authors/tips-for-finding-referees</p>
61	査読について	分野や内容にもよると思いますが、査読者を探す(査読を受け入れてもらう)のに時間がかかるかも知れません。私の場合は1名は自身で選択した方、もう1名はF1000のreviewer finderのツールで探しました	確かに査読者の同意を得るまでに少し時間がかかるかもしれませんが従来のジャーナルではできなかったことを著者が人を招待することで直接影響を与えることができるというメリットがあります

No	カテゴリ	質問	返答
62	査読について	投稿してからEditorialチームから最初の連絡が来るまで、私は1ヶ月弱かかりました。当初F1000からの説明では、英語であれば草稿送付から1週間前後でEditorial チームから連絡があるということでしたが、私の場合は本学のF1000ご担当者様を通じて催促をもらった上で1ヶ月弱待ったので、1週間前後というのはあまり信用できないのでは・・・と感じました。また、支払いに関しては、投稿→チームから校正の連絡→校正を戻し、支払い情報を入力する→請求書がようやく来る、という流れで、これも2週間はかかりましたので、法人カードの支払期限などがある場合には注意が必要です。	この件について調べてみたところ、弊社の記録によると、記事は25日に投稿され、翌月8日に編集部から著者にメールを送りました。つまり、1ヶ月には満たないものの、F1000が当初想定していた1週間を上回っており、これを下回ったことをお詫びしたいと思います。現時点では、投稿から著者への最初の連絡まで約10日かかっていますので、もしまた弊社で出版されるのであれば、もう少し早い対応ができると思います。
9	公開時期について	11月公開とのことですが、投稿はいつから可能になりますか？	11月中旬から11月末を目指しています。
60	投稿のページについて	登録時(ID作成時)に用いるメールアドレスは、所属機関のものでないといけませんか？	筑波大学の構成員であることを確認するのが容易になるため、大学のメールアドレスを推奨していますが、不都合があるときは、どのメールアドレスを用いても構いません。
8	学内体制について	全体の体制はどうなっているのか	運用委員会を設置し、運用体制を構築していく予定です。
56	その他	Gatewayへの登録は機械的に行われるのか？自分の論文は、憲法とコロナの両方に関係する内容であり、F1000Rのコロナ関係のGatewayにも登録されると良いと思っています。	Gatewayの登録は機械ではなく、人が確認しています。筑波大学ゲートウェイに投稿された論文はまず、筑波大学ゲートウェイに登録されます。編集チームが、内容確認後、他のGatewayにも登録したほうが良いと判断すれば、その旨、著者に連絡されます。また、著者からの希望があれば、編集チームに連絡ください。